大内地区で取り組んでいる「地域の教科書」づくりの情報や、各地区の出来事などをお伝えします

「地域おこし協力隊日々通信」

2017年9月15日発行
大内地区協議会監修

大内かわら版 NO.10

大内地区の「地域の教科書」

①暮らしに関することをまとめたもの（行事・役割、慣わしなど）
②地域の魅力・特徴などをまとめたもの

目的・効果

〔移住希望者〕大内のことを知ってもらい、知ったうえで移住してもらう。選んでもらう。
〔大内住民皆様〕・地域の魅力など認識の再確認をする。
・在住行政区以外の行事・団体などを知る。
〔出身者・若い世代〕地域の魅力などを情報発信し理解してもらう。

「地域の教科書」づくりの今後のスケジュール

大内地区全体と12区毎の情報を整理したものを、9月末頃に予定している「地域の教科書づくり推進会議」を通し、より良いものにしていきます。その後**大内地区全ての皆さん**に配布いたしますので、

ぜひこちらをご確認ください！

① **自分の区の内容をご確認ください。**
お渡ししたものの相違点や過不足があればご報告ください。

② **自分の区と他区は、どこが違うのかご確認ください。**
1）どんな行事や役割があるのか。
2）区費の集め方や暮らしのルールはどうか。

住民の皆さんの負担が軽減し、もっと暮らしやすい方法が見つかるかもしれません！

移住事業・交流事業とは？<3>（地域を改めて見つめ直す）

「移住・交流」は外からの人を呼んでくるものと考えがちですが、生まれ育った地域を改めて見つめ直すきっかけにもなるものです。外からの視点を取り入れることで、当たり前と思っていた暮らしの風習や景色にも、価値や魅力があると気付くことがあります。

今回は、限界集落であった小さな集落が、外から人を受け入れることで、自信と活気を取り戻した事例をお伝えします。

新潟県十日町市池谷・入山集落

池谷・入山集落は、8世帯で2004年中越大地震後人口が減り13人に。また、住民の高齢化もあり、閉村も考えていました。

そんな時、震災の修復や雪かき、農作業など自分達だけでは出来なくなったことを手伝ってくれるボランティアが集落へ。当初はよそ者の受入れに不安を抱いていましたが、手伝いを通し交流する中で「気持ちが若返った」「村の空気が変わった」と自信を取り戻すとともに、手伝ってくれることに対し、地元への誇りを持ちはじめました。また交流することでボランティア達が村のファンとなり、何度も訪れるようになりました。

ボランティアと集落を歩いてみるなど、交流していく中で、自分達に当たり前のものも、外から来た人には宝物であることに気づかされ、それをどうやって未来に伝えるか考えはじめました。

将来を考えた村の計画書では「地域復興の究極の目的は『集落の存続』」「集落の存続に必要なのは『後継者が暮らせる環境』を整えること」と明記され、外からでも人を受け入れ後継者（移住者）になってもらいたい、という方針が決まりました。その想いに共感し、村のファンとなった若者など移住者が増え、子供が生まれるなど活気が戻りつつあります。

大内各地区の出来事や催しなど（8～9 月中旬）

いきいき交流センター夏祭り 8/12-13
「流しそうめん」や「ゆでとうもろこしの販売」などがあり大変盛況でした。

青葉女子会 8/24
役場の出前講座を利用してニュースポーツを体験しました。

旧黒佐野分校の宝物
黒佐野分校の思い出が詰まった宝物達が大切に保管されています。

（社福）はらから福祉会「第 15 回 はらから祭り」 8/27
県内全はらから施設が自慢の製品を出店した「はらから祭り」。丸森町では初開催となり、400 名を越える来場者で旧大内中学校跡地が賑わいました。旧体育館のステージ発表では「大内てけれけ太鼓」の演奏や、大内山伏神楽の舞も披露されました。

熊野神社(山屋敷)改築式 9/3
7 区の皆さんにより改築された神社のお披露目がありました。

あじさい会（北伊手） 9/3
毎月開催されているお茶のみ会。
9 月は白米ダンベルを作りました。

MARUMORI みらい宴夜 9/8
丸森の未来を考え、つながりを深めるイベントが開催され、75 名が参加しました。

薬師如来／耳の神様（青葉）
耳と女性を表す貝殻が吊され、耳の神、女性の神として信仰されています。

福島県石川町野木沢地区×宮城大学　学生交流事業

６月に大内地区に視察研修に来られた福島県石川町野木沢地区は、宮城大学とご縁がありますが、そのきっかけは地元住民との対話などで、地域課題を見出し将来像を考えていくという日本造園学会のワークショップでした。

活動の中で交流を深めた後、野木沢地区が宮城大学に学生交流事業を打診し「宮城大学まちづくり研究室」が結成されました。農作業や地区行事などで信頼関係をより育み、きっかけから５年経た現在でも交流が続き、活動した皆さんは野木沢地区のファンになっています。

交流事業による地域の変化・効果
（野木沢地区まちづくり委員会様より）

交流事業を続けることにより**自分たちの地域資源を見直す**ことができ、地域一体となって６ 次産業にも取り組むことができました。また、当初の目的でもある**地域コミュニティにも寄与**しています。

野木沢地区で感じたこと・得たこと
（宮城大学まちづくり研究室卒業生様より）

野木沢での暮らしにふれて、生活の知恵、地域のつながり、人の温かさといった、**生きていくうえで「大切にしたい」と思えるような、気づきと学び**をいただいていると感じています。

学生の皆さんが設計から商品開発、デザイン・販売促進に携わり、また、地元素材を活用した商品作りに励むお母さん達を中心とした野木沢地区の皆さんが **10/7(土)にいきいき交流センター大内の収穫祭へ出店**されます！